授業科目	英語文学Ⅱ					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	2	開講時期	後期
担当教員	ブラウン馬本　鈴子						
授業概要	前期の英語文学Ⅰに引き続き、英米文学の入門講座として、欧米人なら誰でも読んだことがある本を読んでいく過程で、文学作品の技法や背景を学習していく。後期の本講座では、英語学習者用に編集されたオックスフォードの graded readers 版の難解ステージをレベルアップし、アメリカ小説では Little Women と、イギリス小説では A Christmas Carol を読む。また折にふれて、原作と比較をしたり、映像資料を見たり、他の関連作家の作品を紹介したりする。						
授業形態	講義・演習			授業方法	Google クラスルームを資料掲載や課題提出に利用する		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	１．授業で取り上げた英米文学作品をきっかけに、文学作品を深く味わい、今後の専門的な文学作品研究の世界で応用できる。 ２．講義を通して精読、速読を進める中で、高度な英語力の向上ができる。
理想的レベル	授業以外で学ぶ文学作品をアカデミックな観点から原著でも読むことができる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験		
小テスト	40%	第１５回授業時間に、指示に従い解答して提出
レポート	30%	毎回の授業で提出する和訳や確認ミニテスト、感想など
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物		
その他	30%	発表の仕方、内容の質、授業受講時の態度

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	-	DP3	○	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	EN21210J

学習課題（予習・復習）	１回の学習目安（時間）
授業前は課題の和訳をする前にまず音声を聞き、全体の流れを英文で理解してから自分の和訳担当箇所を丁寧に和訳し、授業後はもう一度音声を聞いて理解が難しい箇所がまだあれば読み直す。	4

授業計画

第１回	授業オリエンテーション＋Little Women １導入 CD 音声理解度%、解説後理解度%、夏休みの思い出、クリスマスについて、などを記入
第２回	Little Women 2 読解確認・内容解説

	作者の人生を紹介し、関連する洋楽を鑑賞する（クラスルーム動画あり）
第３回	Little Women 3-5 読解確認・内容解説
第４回	Little Women 6-8 読解確認・内容解説（クラスルーム動画あり）
第５回	Little Women 9-11 読解確認・内容解説
第６回	Little Women 12-14 読解確認・内容解説
第７回	映像資料（前半）＋補足説明 書評『ルイーザ・メイ・オールコットの日記：もうひとつの若草物語』を読む 映画メモ記入
第８回	映像資料（後半）＋補足説明 映画メモ記入
第９回	映画メモ返却 A Christmas Carol 1 読解確認・内容解説
第10回	A Christmas Carol 2 読解確認・内容解説（クラスルーム映画動画、she/girl 和訳資料あり）
第11回	クリスマス・パストのイラスト投票 A Christmas Carol 3 読解確認・内容解説（クラスルームクリスマスプディング動画あり）
第12回	A Christmas Carol 4 読解確認・内容解説（クラスルーム、クリスマス・キャロルのディキンズ英文資料、イギリス・アイルランド資料あり）
第13回	A Christmas Carol 5 読解確認・内容解説 結末を原作と比較する（クラスルーム資料あり） 映像資料（冒頭）＋補足説明
第14回	映像資料＋補足説明 映画メモ記入
第15回	映画メモ返却 まとめ 小テスト（第１週～第１４週の復習・確認及び応用） ＊辞書・タブレット・携帯や訳本以外は、前期に扱ったテキストやメモ、自分の和訳やクラスルーム資料をプリントアウトしたものなど全て持ち込み可能 アンケート
テキスト	Oxford Bookworms Library 4: Little Women (OUP) Oxford Bookworms Library 3: A Christmas Carol (OUP)

参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	授業中に適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	＊小テスト：成績発表後に、希望者には個別に結果を提示する。 ＊レポート：確認ミニテストやレポートの回答例は授業中に解説したり、学生のレポートの添削例をクラスルームに掲示したりする。和訳は、基本的には、シラバス上記記載の授業計画の内容をクラスルームに授業時間開始前までに提出すること。
学生へのメッセージ・コメント	教師の私自身も痛感することですが、教養ある欧米人と英米文学について話をする時に驚かされるのは、日本人と比べて圧倒的に多い読書経験です。英語が母国語でない日本人が原書で英米文学に挑もうとするのは勇気ある挑戦ですが（もちろん良い側面も沢山あることを強調しておく）、膨大な時間がかかるので、その結果として欧米人の読書量には及びません。英語学科の学生には、翻訳版であれ、映画であれ、できるだけ沢山の文学作品に触れてもらいたいと願います。ちなみに授業で扱う本以外にも、英語学習者用に編集された graded readers 版は本大学に数多くありますので、是非図書館へ足を運んでみてください。前期後期とこの英語文学入門講座を受講した学生は、オックスフォード社の graded readers 版のステージ２，３，４を読んだことになるので、どのレベルが自分に適しているかを知ることで、今後の読書選択に繋げてもらえたらとも思います。